比治山大学短期大学部紀要，第42号，2007
Bul. Hijiyama Univ. Jun. Col., No.42, 2007

縫い絞り染めの新技法

岩 村 穂 波*

1．はじめに

染色技法の一つである絞り染めは世界各地で生活の中から自然発生的に出てきた方法であり，4世紀後半頃に日本に渡ってきたとされている技法で天平の三纈といわれる纈纈（絞り染め），夾纈（板締め染め），臈纈（ろうけつ染め）の中に既に見ることができる。その作品は正倉院や法隆寺の御物に多くある。日本での絞り染めの普及について竹田耕三氏は，『日本書紀』に絞りについての記載があることから，「7世紀の中頃には，相当数の絞り染めが作られていたと思われます。」[i] と述べている。

絞り染めは簡単に言うと，布地に皺や襞をよせて糸で絞って染色して模様をだすという方法である。その場合ただ布を括るよりも，模様の形にそって縫ってから絞るといういわゆる縫い絞りのほうが形を的確に表現しやすい。日本の絞り染めの技法は現在80種類くらい行われていると言われている。

今回授業で，期日の限られた中での50号の縫い絞り染め額装作品を制作することを学生が希望し，それを指導することになった。そこで早くてしかも当初の目的に合った表現が出来る方法を開発することが望まれることになった。以下新しい技法への模索過程を追ってみたい。

2．手縫い絞りとミシン縫い絞り

従来は縫い絞りといえばほとんどが手縫いを意味した。手で一針々々布に刺していくには時間がかかる。手縫いの「平縫い引締め絞り」[1] やそれを応用した「木目絞り」[2] と同じような出来上がりで作業時間を短くするために，誰でも容易に手に入り簡単に扱える家庭用ミシンを利用する方法を考えてみた。

ミシンを使用した方法としてはたった一つ，「ミシン絞り」[3] という縫い絞りの方法が今までにもある。しかしそれは「平縫い引締め絞り」や「木目絞り」のような模様ではなく，直線の縞模様を出す方法で，布を一つたたんで重なった部分の布計3枚を一緒に縫い締めるものであり，ミシンもS型環縫いミシンという上糸のみで縫う特殊なミシンを使用する。また糸を引締めて皺を寄せるのではなくミシンで縫って布を押さえて防染する方法である。

家庭用ミシンを使用して手縫いの「平縫い引締め絞り」や「木目絞り」と同じ模様が出せるか試作した。

*総合生活デザイン学科

3．試作工程

(1) ミシンを最大の針目４㎜，下糸をつり気味に調整し，木綿糸白20番で直線１本を縫い，下糸を引締めて留めた。[4] 手縫いのほうも針目を同じにして木綿糸20番の２本取りで平縫いにして引締めた。(「平縫い引締め絞り」) 染料は藍を使用した。

(2) 同じく針目４㎜で木綿糸20番を使い，線を複数本縫ったが，ミシン縫いも手縫いもすべて針目を一段目に揃えるようにした。その場合線と線の間隔はミシン縫いの場合は４㎜[5] と８㎜[6] の二通りで行い，手縫いは４㎜（「木目絞り①」）とした。

(3) (2)と同じ方法で複数本の線を縫ったが，今度は針目をミシン縫いの場合は半目ずらし，手縫いの場合は一目ずらして[7] 縫った。同じくミシン縫いの場合は線と線の間を４㎜[8] と８㎜[9] の二通りで行った。

4．結果と考察

(1) 同じ糸で線を１本縫った場合は，ミシン縫いでは手縫いのようにはっきりと模様が出にくい。

その原因の一つは，ミシン縫いの場合は上下の糸で縫い合わせるために布の表面には常に糸が出ており，引締めた時に１本の続いた線で模様となって現れるためと考えられる。手縫いのように一針おきに糸の見えない状態があって染める色がそこにつくのとは違いがある。また手縫いよりは引締め方が緩くなり勝ちであることもあろう。

(2) 複数の線を縫う場合に，１段目の針目に合わせると手縫いの場合は上下きれいに合って模様が揃うが，ミシン縫いの場合は縫い始めが揃っていても少しずつずれていき，手縫いのようには模様が出ないことがわかった。結果試作行程(3)の場合と同じになった。

(3) 普通手縫いの場合は線の１段目と２段目の間隔は針目分だけ下がるとしており，それ以上下げると模様が出にくいが，ミシン縫いの場合は針目の２倍にしても模様の出方は同じになることがわかった。

(4) ミシン縫いの場合は下糸をつり気味にしてそれを引締めるようにしたが，糸が１本であるので引締める力がかかりにくいことがわかった。また線を１本縫う場合の留め方がむつかしく，今回は複数の線を縫う場合は２本の線の引締めた糸どうしで結んで留めた。

5．まとめ

試作を経て実際の作品制作にミシン縫い絞りを導入することができ，制作時間の短縮をはかることができた。実際に作業をしてみて，手縫いの場合は約半年はかかりそうであったが，ミシン縫いをしたお陰で約２ヶ月で完成することができた。

いままでにない新しい縫い絞り染めの方法を考案して一応の成果を得ることができた。今後は更に展開をしてもっと多様な表現ができるように工夫をすることが課題である。また技法内容が充実してから新しい技法のきちんとしたネーミングも考えたい。

余録であるが染色を初めて体験してから練習も含め約８ヶ月で，50号の縫い絞りによる染色作品[10] を展覧会[11] に出品することができ，しかも入選できたことは，学生本人にとって大きな自信につなが

ったことと思われる。一緒に喜びたい。

引用文献

i　竹田耕三『日本の手絞り』染織と生活社，1981年，P.17

注

1）図1　平縫い引締め絞り
2）図2　木目絞り①
3）図3　ミシン絞り竹田耕三『日本の手絞り』染織と生活社，1981年，貼付裂番号9
4）図4　ミシン縫い絞り①
5）図5　ミシン縫い絞り②
6）図6　ミシン縫い絞り③
7）図7　木目絞り②
8）図8　ミシン縫い絞り④
9）図9　ミシン縫い絞り⑤
10）図10　50号作品
　図11　50号作品（部分）①
　図11　50号作品（部分）②
11）第58回 広島県美術展，2006年

（受理　平成18年10月31日）

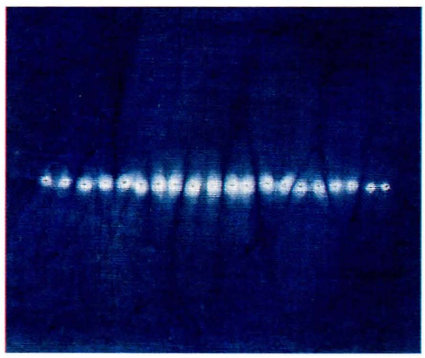

図1　平縫い引締め絞り

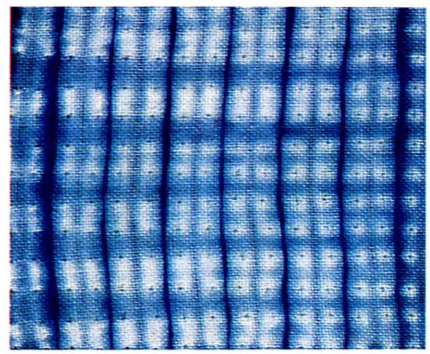

図2　木目絞り①

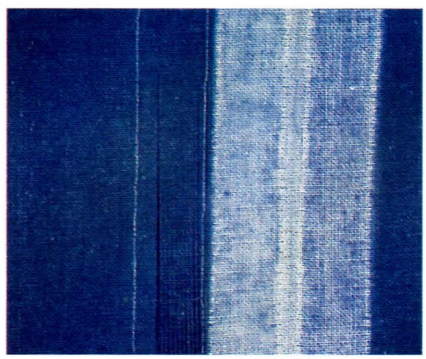

図3　ミシン絞り

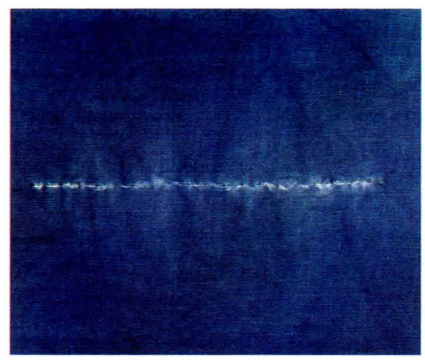

図4　ミシン縫い絞り①

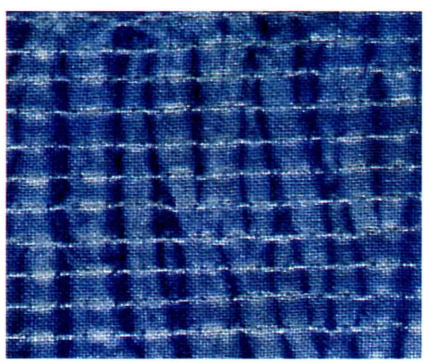

図5　ミシン縫い絞り②

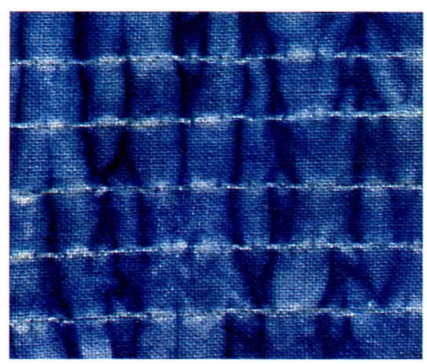

図6　ミシン縫い絞り③

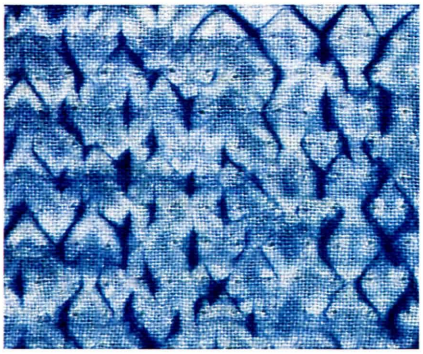

図7　木目絞り②

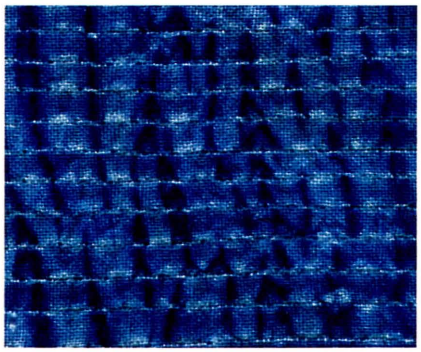

図8　ミシン絞り④

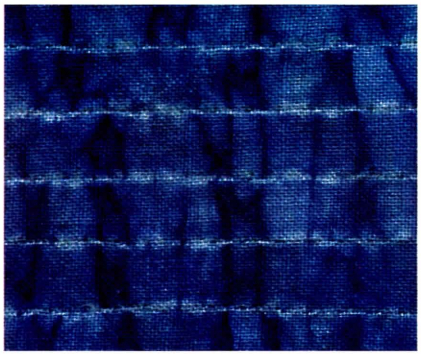

図9　ミシン絞り⑤

図10　50号作品

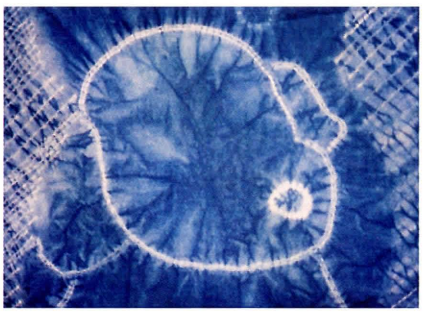

図11　50号作品（部分）①

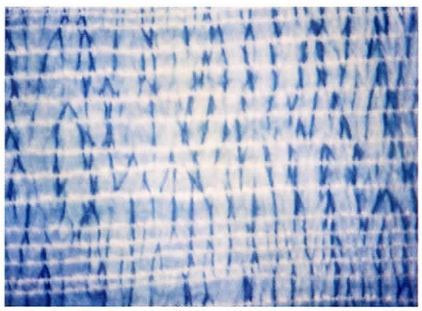

図11　50号作品(部分) ②

Abstract

A New Technique in Making Tie-Dyed Works

Honami IWAMURA*

In making tie-dyed works in the past, we have usually sewn and squeezed cloth with our hands, which takes a lot of time in making large works.

So, we tried many methods in order to discover the best one, which should not spoil our intention of creating works, but enable us to get the same expression as we do with the hand-sewing method, enabling us to save much time at the same time.

As a result, we developed a new technique , adopting sewing machines.

Imagine making a work as big as size 50. It would take about half a year to finish it, if we adopted the method currently in use. The new technique, on the other hand, will enable us to complete it in under 2 months.

(Received October 31, 2006)

*Department of Comprehensive Human Life Studies